

卒業論文とはどういうもの？

- 1、レポートより量が膨大、25 ページ以上。そのため、まず既存研究や参考資料の既存な結果や既存な経済理論などをまとめる必要がある。まとめることはコピペと全く違う。コピペがある場合卒業できない。この点について後に改めて詳述する。
- 2、オリジナリティが要求される。アンケート調査やデータ分析、現地調査などのフィールド調査を行えば自然にオリジナリティが出る。
- 3、論文全体をまとめて最終的な結論や成果を出す必要がある。読書感想文は不可。
- 4、論文のタイプ：

(ア) 演繹型

経済理論や既存な研究結果の基に推理を行って新しい結論を導出する。簡単に言うと「AよりBが言える、BよりCが言える、今の状況がAであるのでだからCが言える」という演繹的な方法で結論を導き出す。

(イ) 帰納型（一般から個別への論理）

大量な事実やデータを羅列して、それらを根拠に結論を下す。

たとえば、A市が中小な観光都市であってX策で経済再生、B市も中小観光都市であってX策で再生、C市も中小観光都市であってX策で再生。それで因果関係を推測して、中小観光都市がX策を取れば再生できると考える。さらに、D市が中小観光都市なのでX策を取れば再生できると結論付ける。

(ウ) 総合型（一般的かも）

演繹法も帰納法も利用して、理論による推理を行って結論を出して、さらに、事実やデータを羅列して結論を検証し補強する。

（人間の基本的な思考法である演繹法と帰納法に関しては

<http://www.abysshr.com/mdk1g010.html> を参照ください。）

- 5、まず先輩の卒論をめぐってみる。

ステップ1、テーマを決める（再来週まで）

卒論のテーマを決めるときの注意点

- 1、経済学や商学と関連するものである。
- 2、なるべくデータ分析を取り入れる。
- 3、ニュースや身近の経済現象から探す。
- 4、書籍やウェブサイトを閲覧して関心のあることを見つける。
- 5、まず、大まかな範疇を決める。
- 6、関心のある範疇内で具体的な問題を見つける。

- 7、大き過ぎるテーマが大敵、たとえば、「日本経済を活性化するための政策」大き過ぎでまとまらない、「外国人観光客を誘致するための方策について」のほうが書きやすいでしょう。もっと細かくでもいい。たとえば「タイの観光客を北海道へ誘致するために」、「キロロにスキー客を誘致するために」など。

ほかのテーマの実例：

- 「スマートフォンのキャッシュバック合戦の経済学」
- 「大学生の携帯電話の消費嗜好」
- 「小樽商科大学の低水準な道外生率の原因究明」
- 「ビットコインの真実」
- 「小樽地域通貨の可能性」
- 「消費税増税の小樽経済への影響」

ステップ2、資料、情報の収集

資料の収集方法

- 1、図書館で検索
 - (ア) 図書
 - (イ) 雑誌
 - (ウ) 過去の新聞
- 2、インターネットで検索
 - (ア) Google には信ぴょう性のない資料もあるので要注意。根拠がなく単なる個人的な主張や思い込みは引用に適さない。
 - (イ) Google scholar には論文になっているものが多い。事実やデータなどの根拠があって信ぴょう性が高い。

資料を読んで整理するときの注意点

- 1、まず、概要を読んで関連していなさそうな本はやめる。
- 2、関連する箇所についてメモを取ること。たとえば、どの本、どのページで何について書きましたかをメモで記録する、論文を書くときに見つかるように記録する。単に文書をコピーして、または移して残すのは後になって参考文献を付けることができなくなるので、要注意。

ステップ3、調査研究（調査ができる、必要な場合）

ゼミ中で指導。

ステップ4、論文の作成

参考資料を熟読し、理解して自分の考えを引き出すのが肝心である。同じテーマに関して人それぞれの意見がある。異なった意見に関する文献を読んで、事実とデータを根拠にそれらの意見に関して判断し、自分なりの結論を出す。

論文を作成する前にまず構成（アウトライン）を作成する。

☆ 論文の構成例

- 1、はじめに、論文の目的や背景の概略と論文の各章の概略や結論の概略を述べる。
- 2、論文の目的や既存研究や背景について詳細に述べる。
- 3、関連する経済理論などを根拠にテーマに関して論じる。
- 4、読んだ参考文献や調べた事実を根拠にテーマについて論じる。
- 5、アンケート調査
 - ①アンケート調査について説明する：調査目的、調査票、調査対象など
 - ②調査データに関して記述統計などを利用して概観する。
 - ③利用する統計的方法の説明。
 - ④統計的方法による分析結果を図表などでまとめて、その結果による推論を述べる。
- 6、まとめ。2-5までの結果をまとめて、最終の結論やこれからの課題などを述べる。

☆ 参考文献の引用や利用法

1、引用：

引用には直接引用と間接引用がある。

- ① 直接引用：著者や発言者のもともとの意見を尊重し、正確に伝えるための方法である。カギ括弧でくくって原文の通り引用する。極端に長い長文の引用は剽窃になるので、注意してください。直接引用は著者や発言者の意見を議論や反論のターゲットにする場合によく利用される。

例：

原文：ゴーンさんの発言：そうではない。進化を加速するためだ。いま世界中で9つの工場を立ち上げており、拡大の取り組みを集中するなかで逆風が強すぎる。経営会議は平均年齢が高すぎるため若返りを図らなければいけない

引用：産経ニュース[1]によると、日産ゴーン社長が記者会見で「経営会議は平均年齢が高すぎるため若返りを図らなければいけない」と改革の意欲を述べた。

論文の参考文献リストにおける表記：

参考文献：

[1] MSN 産経ニュース、日産ゴーン社長、会見での主な発言 「会社の進化を加速する」「経営会議の若返り必要」、2013.11.1 21:05

URL: <http://sankei.jp.msn.com/economy/news/131101/biz13110121090036-n1.htm>

- ② 間接引用：著者や発言者の意図を理解して、原文の意味合いを自分の言葉に置き換えて紹介する。間接引用は著者や発言者の意見や結論、収集した事実やデータを自分の論述の根拠にしたい場合によく利用される。

例：

原文：地域 SNS が全国的に広がる中では、目的や運営主体、運営体制、ビジネスモデルなどの多様化が進んだ。地方自治体が行政のために運営するものばかりでなく、実にさまざまな人々による多様な取組みが行われている。

引用：庄司(2008)[2]によると、地域 SNS の目的や運営主体、ビジネススタイルなどの多様化が進みながら全国的に広がっている。

参考文献リストでの表記：

参考文献：

[1]。。。。。

[2] 庄司昌彦 (2008)「地域 SNS サイトの実態把握、地域活性化の可能性」、情報通信政策研究プログラム、No.ICP-2007-014。

- ☆ むやみに引用して、引用ばかりの論文が無意味である。文献を読んで十分理解して、その中の事実やデータを引用して、さらに自分が収集したデータと合わせて、それらを根拠にして、自分の言葉で自分の意見や結論を述べ、それで初めて論文となる。